

## 朝日地区地域まちづくり協議会設置に向けての意見

平成 23 年 1 月 21 日  
村上市朝日地区地域審議会

朝日地区地域審議会では、平成 23 年度から着手する「市民協働のまちづくり」について市から説明を受け、当地区における協議会のあり方について審議し、次のとおり意見を集約した。

### 1 地域まちづくり協議会設置に係る区域設定について

朝日地区は広範囲であるため一つの「地域まちづくり協議会」で活動していくことは難しい。風習や歴史、人的交流などのつながりが深い旧地区単位である館腰地域、三面地域、高根地域、猿沢地域、塩野町地域の 5 地区に設定することが適切である。

### 2 地域まちづくり協議会への財政支援の基本的考え方について

現時点で示された事項を了解した。

### 3 その他

審議会での主な意見は別記にまとめたので、今後、朝日地区の「市民協働のまちづくり」推進の参考にしていただきたい。

## 別記

### 朝日地区地域審議会での主な意見

#### (1) 区域設定について

朝日地区は集落の伝統行事をととても大切にしている。今後も継続していくために旧5地区単位のつながりを大切にしたい。新たに事業を展開している地域もある。この枠組みをうまく活用していただきたい。

#### (2) 「地域まちづくり協議会」設立に向けて

設立準備のためには、地域住民が主体となるべきであるが、区長さん方にはかなりの部分をお願いすることになると思う。協議会の委員を選出する際には区の役員だけでなく女性や若い人など様々な世代による構成とし、多方面から意見が反映されるようにしていかなければならない。

これまでの説明を聞くと、行政からの交付金があるから「地域まちづくり協議会」を早く設立しようという形になってしまう。

地域が主体となるためには、地域が抱えている問題を解決しようと一生懸命取り組むこと、やる気を喚起できる仕組みづくりを十分な時間をかけて構築していくことが必要である。

#### (3) 「市民協働のまちづくり」推進に向けて

若い人で地域づくりのリーダーになれるような方をメンバーに入れて、協議会設立後も継続して次の世代を育成していくような仕組みを作ることが必要になってくる。

若い人がいなくなり集落単位の事業や活動が出来なくなってきたので、もう少し広い範囲の地域で何かをやっていこうというのは理解できる。しかし、計画を立てて、実行に移すことは地域が広くなればなるほど様々な弊害が出てきて簡単に出来ないこともある。難しい部分がたくさんあることも覚悟して臨まなければならない。